

世界の頂へ

和道会空手道
ワールドカップ 2015 優勝

千葉良樹 佐沼中3年
中田町仲町
Ryoki Chiba

FILE01



2大会連続で優勝を決めた工藤選手(左から2番目)

5年に一度、空手道和道会の世界一を決める「和道会空手道ワールドカップ2015」は8月15、16の両日、愛知県体育館で開かれた。日本代表としてカデット(14、15歳)男子組手に出場し優勝した千葉選手。所属する和道会がさま(武川秀和館長)はもとより、全日本和道会期待のホープだ。

「目標であった工藤開さんに追いつきたいと頑張ってきました。同じ大会で世界一になって本当にうれしいです」と笑顔を見せる。千葉選手が目標としている工藤開さんとは、迫町大綱出身で近畿大学空手道部で主将を務め、全日本大学選手権で2連覇している大学空手界のエース。和道会がさま出身で、5年前に開催されたワールドカップ2010ジュニア男子組手で、今回は一般男子84kg級で優勝。和道会がさまが生んだ、日本のエースとのダブル優勝に喜びもひとしおだ。今大会一番の山場は、スコットランド代表選手との一回戦。「外国人と試合をするのは初めて。普段自分より大きな相手と対戦することはないので、苦戦しました」。千葉選手の身長は179cm。国内で、自分より大きな選手との対戦はほぼない。しかし、世界大会では、10kg以上も大きな選手との戦い。普段は待つて攻めるが、リーチが長く、積極的に動いてくる外国人相手に向かないので、積極的に攻めに出た。慣れない相手と戦法ながらも4-2で勝利した。

「一回戦でリズムに乗れたので、あとは大丈夫でしたね。スロースターターなのですが、エンジンがかかればそのままいけるので」と武川館長は話す。その言葉通り、残り4試合は全て8ポイント差の圧勝。決勝戦も、相手を完封しての勝利だった。空手を始めたのは3歳の頃。2人の兄が、和道会がさまに所属していたことから、4歳で入門。武川館長は「兄弟の中で一番気が強く空手向き。幼稚園の頃は試合前に『絶対負けない』と対戦相手に宣言していましたから」と笑う。「全く覚えていません」と千葉選手も笑う。

全日本空手道連盟和道会
国内1,350支部、海外250支部、会員約185万人、有段者約18万人(1997年9月現在)を擁し、空手団体としては日本有数の規模を誇る。柔術(神道揚心流)の影響が色濃い流派であり「さばき」「流し」「押し」「引き」「入り身」「転身」などの技法が特徴。松濤館流、剛柔流、糸東流と並び、空手の4大流派の一つに数えられている。



まちのトップアスリート
Athlete
Zoom Up Tome 2015
Special

挑戦の夏

この夏、世界と全国の舞台で躍動した
本市内、本市出身の小中高生たち
トップアスリートたちの夏に迫る